

1 生徒の実態

(1) 学習状況調査結果の推移

R2 入学 現3年生	国語			数学			理科		
	1年時	2年時	3年時	1年時	2年時	3年時	1年時	2年時	3年時
	県 (12月)	県 (12月)	全国 (4月)	県 (12月)	県 (12月)	全国 (4月)	県 (12月)	県 (12月)	全国 (4月)
	64.2	71.2	76.0	54.7	54.7	54.0	61.9	66.8	56.0
	(1.02)	(1.07)	(1.12)	(0.98)	(1.06)	(1.15)	(1.05)	(1.23)	(1.17)
R4 正答率の全国比			1.10			1.05			1.14

◎ 1・2年時は佐賀県学習状況調査、3年時は全国学習状況調査の推移。

◎ 上段は平均正答率、下段()は県平均を1としての比較。

◎ 「令和4年正答率の全国比」は全国平均を1としての比較。

(2) 学習状況調査・意識調査から読み取れる実態

学習状況調査[3教科共通]に読み取れる実態

- ・全国や県と比べると、3教科とも平均正答率が高い。
- ・無回答率が、全国や県と比べると低い。あきらめずに自分が知っている知識でなんとか解いていこうとする態度が身についている。
- ・問題形式では、記述問題での正答率が低い傾向にある。

学習状況調査[国語]から読み取れる実態

- ・漢字や文法などの知識事項は定着していると言える。
- ・自分で問題を読み取って、自分の言葉で表現することが苦手である。

学習状況調査[数学]から読み取れる実態

- ・武雄北中学校の正答率は佐賀県と全国の平均正答率を上回っているが、「図形」の分野において全国平均を下回っている。具体的には、三角形の合同条件や証明問題について苦手を感じている生徒が多い。
- ・「素因数分解」などの基本的な計算問題ができていない。
- ・文章の意味を正しく理解し、式に表したり、成り立つかどうかを調べたりすることについて劣っている。

学習状況調査[理科]から読み取れる実態

- ・全体としては、全国や県に比べると、平均正答率は非常に高い。
 - ▲ 2－(1) 気圧に関する知識・技能の問題で、正答率が全国を下回っている。
 - ▲ 3－(2) 気体の性質の思考・判断・表現の問題で、正答率が全国を下回っている。
 - ▲ 5－(1) 力のつり合いの知識・技能の問題で、正答率が全国を下回っている。
 - ▲ 5－(3) 実験の計画について、記述式の問題で、無回答率がやや高かった。
- ・無回答率が全国や佐賀県と比べると非常に低い。
- ・ 2－(2) 天気図の思考・判断・表現の問題で、正答率が全国を大きく上回っている。
- ・ 3－(3) 化学変化に関する思考・判断・表現の問題で、正答率が全国を大きく上回っている。

意識調査から読み取れる実態

- ・ほとんどの生徒が家庭学習の習慣が定着しており、テレビゲーム等に費やす時間は短い。
- ・ICT機器を使った学習については、自分の考えをまとめ、発表する場面で積極的に活用している。
- ・授業では、課題解決に向けて自分で考えたり、自分の考えをまとめたりすることができていない生徒がやや多い。
- ・ほとんどの生徒が、初来の夢や目標をもち、人の役に立つ人間になりたいと考えているが、最後までやり遂げようとする気持ちやチャレンジ精神はあまり強くない。また、自己肯定感については、学年としては低くはないが、自分に自信をもてない生徒が数名いる。

2 改善に向けた具体的な取組

(1) 授業づくり、指導方法の改善・充実のための重点取組

- ・自分の考えや思いを、自分の言葉で表現させる機会を増やす。
- ・電子黒板にモデルやリード文を示し、書くことが苦手な生徒にも、取り組もうとする意欲や書けたという成功体験をもたせる。
- ・定期テストや課題テスト等で記述式の問題を増やす。
- ・学級活動や道徳の授業では、自己肯定感を高める教材を計画的に取り扱っていく。
- ・感染症対策を十分にとりながら、話し合い活動など意見交流の機会を増やす。

(2) (授業以外) 児童・生徒の課題改善のための重点取組

- ・タブレットドリルを活用することで、家庭学習の充実、基礎学力の定着につなげる。
- ・学級活動で話し合い活動や、レクリエーションの企画などを通して、自分の考えを表現する場を増やす。
- ・行事等の活動方法を工夫して、コミュニケーション能力を高める手立てをとる。
- ・学校生活全般の中で、生徒自身が自ら選択する自己決定の場面を意識的に設定する。
- ・生徒会活動では、生徒自身による企画、立案の行事を増やす。